

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-46	中 学 校	技術・家庭	技術・家庭 (家庭分野)	第1～3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
009 開隆堂	家庭 726	技術・家庭 (家庭分野)		

1. 編修の趣旨及び留意点

① 趣 旨

教育基本法の目的の実現，学校教育法の目標の達成のために，家庭分野の特質を効果的に生かした学習ができるよう，以下の趣旨のもとに教科書を編修しました。

- 実践的・体験的活動を通して，自ら課題をもって家庭生活および社会生活の問題を解決する力が育つようにする。
- 生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識や技術が確実に習得できるようにする。
- 持続可能な社会を構築するために，その課題を理解し，主体的に行動できるようにする。
- 言語を用いた学習活動を充実させ，生活課題における言語の能力を高める。

② 留意点

①の趣旨のもと，その具体化にあたっては，以下の点に留意しました。

(1) 生活の「自立」と「共生」

生活的自立の意味を理解し，それをめざして各自が実践できるように留意する。

また自立は，一方で人とかかわり支えあう「共生」ができることであることを理解できるように，クラスメイト・家族・幼児・高齢者・障がい者（児）・在日外国人等，様々な人のかかわりの内容を掲載し，自立と共生の課題が理解できるようにする。これらを通じて道徳教育が行われるように配慮する。

この「自立」と「共生」が教科書全体を通した大きなテーマとなる。

(2) 「持続可能な社会」

「持続可能な社会」をもう一つのテーマとし，一人ひとりが，世界の人びとや将来世代，また環境との関係性の中で生きていることを認識し，行動を変革できることをめざす（ESD教育）。そのために，環境教育の充実はもちろん，人権・福祉・男女平等・防災など，

公平・公正で安全な社会を目指すための事例を積極的に取り上げる。また、A B C Dすべての内容の最後に「持続可能な社会」の実現に向けて、生徒が主体的に考えることのできるまとめのページを設定する。

(3) 自己の生涯の見通し、および、家族・家庭と、地域・社会のつながり

自分の生活を、生涯の見通しをもってみつめること（時間軸）と、自分と家庭生活を、地域・社会（国際）との関連でみつめること（生活の横断軸・空間軸）の両方ができるように、全ての項目にその内容を反映させる。様々なものや人と関わる学習の中で、子育て理解や勤労観・職業観などが育まれるように配慮する。

(4) 問題解決学習

家庭生活・地域・社会に関心を持ち、自分・自分達で問題をみつけて、解決に努め、生活に生かす力を身につけるように、全ての内容の各小項目に、学習の導入として、生活の具体的な場面を課題として考えることから始める、導入課題を設ける。

(5) 社会の変化に対応した課題

①消費者教育の充実と循環型社会

家庭科における消費者教育および環境教育を重視し、購入から使用、廃棄に至るまでの消費行動と環境問題との関連が理解できるように配慮する。消費者教育推進法の目的が達成されるように、社会において主体的に生きる消費者市民の育成を目指し、記述を増やし充実させる。また環境教育は持続可能な社会の構築の観点から、A B Cの内容との一層の連携を図り、それぞれの内容のまとめとして特設ページを設定する。その他、本文の各所に消費・環境マークを付して、個々の学習内容と関連づけて環境保全についての意識を高め、循環型社会に対応していく態度が身につくように配慮する。

②自立的な食生活を実践でき、食文化を受け継ぐ食育

知識と実践力の双方を身につけて食生活を自立的に送ることができるように、食生活に関する内容に紙面を多くとり、重視する。栄養や食品に関する内容に加えて、調理の基本を知り実践できること、また、地域の食材を利用した調理、全国各地の食材・郷土料理・行事食等、また世界文化遺産に登録された「和食」を掲載し、食文化を伝承する意義を理解し実践できるようにする。

③人権尊重・男女平等（男女共同参画）・ノーマライゼーション

人権尊重・男女平等・ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザインなど、共生の視点を随所に取り入れ、エンカルファッションやリノベーションなどの新たな事例も積極的に取り上げる。これからの家庭生活や社会のあり方について考えられるように配慮する。

④東日本大震災以降の社会

東日本大震災はわが国に大きな傷跡を残しました。暮らしと生命を守る教科として、その経験から学び、生活を見直すことができるように、A B C D各内容で関連する事例を取

り上げる。中でも防災教育を特段に重視する。

(6) 生活と伝統文化のかかわり

衣食住の伝統文化を充実させ、さらに伝統あそびや江戸時代の暮らし方などを取り上げるにより、生活と伝統文化との深いかかわりが理解でき、実践できるようにする。

2. 編修の基本方針

教育基本法第2条の目標の達成のために、以下のことを編修の基本方針としました。

・日常の家庭生活の中で、自分で課題を見つけ、自ら学び自ら考えて主体的に判断・行動し、問題を解決する力が育つことをめざす。

・家庭生活に関する基礎的・基本的な知識や技能を、系統的に配置してそれらを習得・定着を図り、また体験的に学ぶことにより、職業観が養われることをめざす。

・地域や社会に目を向け、地域に住む様々な人びとと交流する学習を多く設定し、社会の一員として他者と協力し、支えあうことができることをめざす。

・環境教育・防災教育を重視し、生徒が現状の課題を認識し、持続可能な社会形成に主体的にかかわっていけることをめざす。

・日常生活に受け継がれてきている衣食住などの伝統文化を、中学生がその伝承の意義を理解し、実践できることをめざす。

以上について、日常生活に関心を持ち、自分にできることについて実践・行動し、主体的に生活を営む能力を育てられることをめざしました。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体	・学習の目標、導入課題、本文と展開し、ふりかえりで自己評価する形を基本とし、問題解決学習への取り組みかたを視覚的・具体的に示しています。本文以外にも、参考や探究、発展、またイラスト・写真などで多彩な事例を示し、幅広い教養が身につくようにしています（知育第1号）。	全体

<p>A 家族・家庭と子どもの成長 「わたしたちと家族・家庭と地域」 「幼児の心身の発達と家族の役割」他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家族や近隣の人びと、学校の先生をはじめ、自分たちが多くの人に支えられていることを理解するために、多くの事例を示しています（徳育 第1号）。 	<p>p.12,13,28, 29他</p>
<p>A「子どもの健やかな成長のために」 B 食生活と自立 「健康と食生活」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健やかな成長のためには、国の法律・制度によって整えられた環境が必要であることを理解するための資料を充実させ、また、直接的には食事による体づくりの必要性に関する内容を充実させています（体育、食育 第1号）。 	<p>p.56,57, 68~81他</p>
<p>口絵「自立に向かって」 教科書全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自立とはどのようなことか、まずは生徒が自分の生活を振り返って考えを表明する場面を設け、主体的な思考活動ができる場面を用意しています。また、教科書全体で自立をテーマに、生活を問い直し改善できるように、考え体験する学習を充実させています。さらに「生活の課題と実践」では、学習したことを生活に生かすための多様な課題例を示しています（自主、自律 第2号）。 	<p>p.2,3 他 全体</p>
<p>A「中学生を取材して（ジャーナリスト 森健さん）」他 B 食生活と自立、C 衣生活・住生活と自立、D 身近な消費生活と環境、後見返しのところまで全21名</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職業観を養い、社会に目を向けられるよう、実際に働いている方からのメッセージを各所に入れています（キャリア教育 第2号） 	<p>p.57,62,63, 69,138, 後見返し 他</p>
<p>A「男女共同参画社会をめざして」他 B, C, D通してすべて</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でも社会でも男女が協力して支える社会をめざす男女共同参画社会の重要性を示し、教科書全体にわたり、図・写真・イラストなどを中心に公平な配慮をしています（男女平等 第3号）。 	<p>p.14,16,17 他</p>
<p>口絵「共生社会に向かって」 A「わたしたちと家族・家庭と地域」 「世代を超えた人びとと交流して」 C「豊かな衣生活と住生活の実現のために」他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 共生社会をテーマに、様々な人びととかがわりあっていくことの必要性を理解し、それらの人びとと支え合い、分かち合う、これからの社会を考えられるように、事例を充実させ、工夫しています（自他との協力 第3号）。 	<p>p.18,19,54 55 他</p>
<p>D「契約と消費生活のトラブル」 「消費者の権利と責任」 「フェアトレード」 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> これからの社会を生きる主体として、権利には責任が伴うことを示し、また公正な社会に向けた取り組みを随所で取り上げ、具体的に考えられる課題を工夫しています。（正義と責任 第3号） 	<p>p.224,225, 230~234 他</p>
<p>口絵「持続可能な社会に向かって」 ABC中の「持続可能な社会をつくる」 D「環境に配慮した消費生活」他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会をテーマに、教科書全体にわたって環境教育につながる題材を充実させ、生活する立場から生態系を含め、環境保全に寄与する態度を身につけることを目指しています（環境教育 第4号） 	<p>p.6,7,54,55, 136,137,164,165, 206,207, 236~245 他</p>
<p>A「避難時に幼児がいる家族に必要なもの」 B「災害にあった時の食事は？」 C「災害への備え」 「災害時の住まいと暮らし」 D「エネルギーについて考えよう」 資料「安全と防災」 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> A B C Dで東日本大震災の事例を積極的に取り上げ、日頃より防災への意識を高め、生命を尊ぶ態度を身につけることを目指しています（防災教育、生命の尊重、第4号） 	<p>p.28,140., 158~161, 244, 268~270 他</p>
<p>A「伝承遊びと子どもたち」 B「地域の食材と郷土料理」 C「日本の特徴ある住まいをみてみよう」 「伝統に息づく和服の文化」 「ゆかたを着てみよう」 D「もったいない」 資料「伝統文化を受け継ぎ、生活に生かす」 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な幼児の遊びや、和食・郷土料理、伝統的な民家や、和服などを数多く取り上げ、また日本各地の伝統文化の事例を充実させ、我が国の独自の文化と先人の工夫に気づき、愛着をもつとともに、日本人としての誇りが育まれるようにしました（伝統文化、郷土愛 第5号）。 	<p>p.36, 130~135, 149, 172,173,242, 271,272,iv 他</p>
<p>A「世界の子どもたちは、今」 B「食料を世界中の人の視点から考えよう」 C「世界の衣服と住まい」 D「環境問題への挑戦」 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 諸外国に目を向けさせる題材を豊富に取り上げ、世界の国々に関心を持ち、他国と協力して、これからの国際社会に貢献する態度を育むようにしました（国際理解 第5号）。 	<p>p.58,139,210,244 他</p>

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

○権利と責任については、特に消費者教育との関連で具体的に考えられるように工夫しました。例えば、契約から発生した消費者トラブルをどう解決するか、また、製品事故にどう対応するか、などそれぞれ見開き2頁を使ったケーススタディがあります。中学生も消費者として、権利と責任を意識し、行動する態度が養われるよう配慮しました（学校教育法21条1）。

○写真・イラストの取り上げ方では、男女の平等、高齢者や障がいのある人、外国籍の人などに配慮し、生徒の「共生」「人権」の意識が培われるよう工夫しています（学校教育法21条2）。

○地域の文化を積極的に取り上げるだけでなく、地域との交流で郷土料理や、ゆかたの着付けを習う授業場面を取り入れることにより、生徒が身近なものとして伝統文化をとらえられるように工夫しています。またリファッションやリノベーションの考え方を紹介することにより、文化を今に生かす視点も養われるように配慮しました（学校教育法21条3）

○思考力・判断力・表現力を身につけるために、問題解決型学習における考察、話し合いの課題や、実習等をふり返り、まとめるための課題などの言語活動を充実させています。巻末資料に、そのねらいがよりいっそう定着するための、言語活動の進め方のプロセス図を掲載しています。また、レポートの例や、ロールプレイングの方法、手紙の書き方など、言語活動の手立ても豊富に示しています（学校教育法21条5）。

○生活の衣食住における事象について、科学的な視点から考え、課題解決できるように題材を工夫しています。例えば、敢えて調理や洗濯などの失敗例を写真で示し、科学的根拠をもとに解説することにより、生活の中におけるいろいろなトラブルを科学的に分析し、改善しようとする態度を身につけられるように、題材を工夫しました（学校教育法21条7）。

○健康で安全な生活を送るための基礎的な学習を充実させるとともに、食品安全委員会など、国民の健康と安全を守る制度や法律の必要性についても理解できるように工夫しました（学校教育法21条8）。

○A B C Dそれぞれの内容において、生活技術のより一層のステップアップを図られるように、随所にプロの視点を取り入れました。また、最終頁で未来に向かう中学生たちに、A B C Dの学習内容にそれぞれ関連する分野で職業に就いている方々からメッセージを掲載することで、キャリア教育の充実を図りました（学校教育法21条10）。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-46	中 学 校	技術・家庭	技術・家庭 (家庭分野)	第1～3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
009 開隆堂	家庭 726	技術・家庭 (家庭分野)		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

○家庭分野で設定されている「A家族・家庭と子どもの成長」「B食生活と自立」「C衣生活・住生活と自立」「D身近な消費生活と環境」の4つの内容に、「生活の課題と実践」、中学校での3年間の学習の見通しを立てさせる「ガイダンス」的な内容を加えた6つの内容で編修しました。

○学習指導要領A～Dの内容構成については以下のように留意し、工夫しました。

※題材配列は授業展開の一例ですが、指導計画では適宜配列を変更できるように、小項目は見開き単位で構成しています。

☆「A家族・家庭と子どもの成長」では、家庭分野のガイダンスとなることも想定し、これまでの成長をふり返る導入、家庭の働きやそれを支える地域について学習する配列にしています。子どもの成長の学習では、**ふれ合い体験を重視**し、ふれ合うための多様な方法を提示しています。家庭生活を地域や社会との関連でとらえ、また幼児の成長をとおして学んだこともふまえ、**これからの家族関係を考える**構成にしています。

☆「B食生活と自立」では、中学生に必要な栄養や献立づくり、食品の選択の学習の後に、調理実習を設定しています。栄養学習など目に見えにくい内容は**視覚化**して、理解しやすいようにしています。それまでの学習を総合し、肉・魚・野菜の調理と、副菜の例も豊富に示し、1食分、1日分の調理を計画立てて取り組めるように工夫しました。実習頁では生徒の意欲を高め、作業のイメージがわくように、写真を効果的に使うことに留意しました。

☆「C衣生活・住生活と自立」では、題材のストーリー性を重視し、日常着の手入れをふまえて、布を用いた製作ができるように、衣生活の自立の内容を継続して配置しました。そのため、住生活→衣生活の配列にしています。住生活でも、住まいの働きから、地域やコミュニティ、まちづくりまで視点が広がるように、**ストーリー性を工夫**しました。製作頁では、調理実習同様、生徒の意欲を高め、また仕上がりのイメージを持つことができるように、写真を効果的に使うことに留意しました。

☆「D身近な消費生活と環境」では、消費者として主体的に行動できるように、具体的事例を豊富に取り入れた題材の内容構成にしています。購入だけでなく、使用や廃棄まで含め、考えて意思決定ができるように、**環境部分との流れがスムーズ**になるように工夫しました。

☆その他「ガイダンス」頁では**3年間の学習の目標と見通し**がもてる1時間の授業を想定した展開にし、「生活の課題と実践」ではA～Cの学習で学んだことが生徒の興味・実態に合わせて生活に生

かせるよう、多種多様な課題例を提示しています。

○A～Dを通して、**基礎・基本の確実な習得を重視**しました。本文の記述は、**基礎・基本**と**参考・発展**等の区分を明確にし、学習内容の精選と重点化が図れるようにしました。特に**基礎・基本**となる内容については簡潔かつ的確に記述し、文体も敬体表記にして、親しみをもって学習できるようにしています。（本文の構成については後述）

○A～Dを通して、**実習・製作などの実践的・体験的な学習活動を豊富に設定**し、その活動を通して、生徒が自立して主体的な生活を営むために必要とされる**基礎的・基本的な知識および技術**を習得できるように編修しました。

○A～Dを通して、「**自立**」と「**共生**」のテーマを縦軸にそれぞれの内容の中で生活の自立が達成できるようにしています。また「**持続可能な社会**」を横軸に設定することで、A～CとDとの連携を強化し、横断的に学習ができるようにしています。

○適宜、リンクマークを用いて、**A～D相互関連した授業**ができるように配慮しています。

○**内容展開・体裁**については、以下の（１）（２）（３）のように、工夫しました。

（１）内容の配置

本書は、技術・家庭「家庭分野」の3年間を見通すガイダンス以下、下図の5つのパートから構成しました。ガイダンスは、見返し、目次、口絵、学び方なども含めて設定しています。

★なお、学習指導要領A(1)アの内容については、ガイダンスとしての扱いと、A(2)や(3)の導入としての扱いができるように、Aの大項目の内容として、位置づけています。

①3年間の学習を見通す ガイダンス 前見返し・目次・口絵・学び方	・小学校の学習の振り返り・中学校の学習の見直し ・家庭分野全体の学習の目標、動機付け、意欲喚起 ・生活に生かす学習のプロセス、学習項目の案内
②ABCD各大項目の内容	・基礎・基本の知識・技能、問題解決学習、発展、参考
③ABCの 生活の課題と実践	・各内容を踏まえて自らが選択する課題学習
④巻末資料	・「手」を使ってやってみよう、言語活動の充実、安全と防災、伝統文化を受け継ぎ、生活に生かす
⑤未来に向かって（後見返し）	・中学校を終える生徒へ将来の参考となるためのキャリア教育

（２）各項目の内容展開

各頁は、以下の点に留意しました。

★「**学習の目標**」を各中項目に簡潔に示し、生徒がめあてをもって授業に臨めるようにしました。

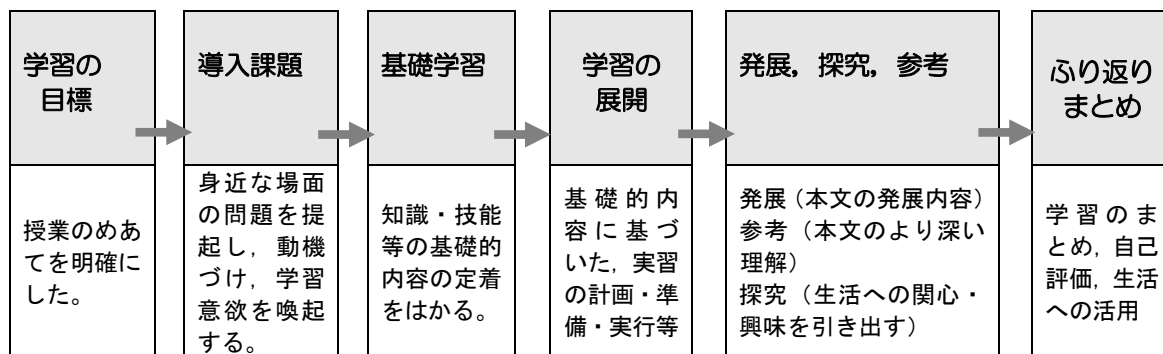
★学習の始まりに「**導入課題**」を設け、学習の意欲づけや動機づけになるようにしています。

★学習の展開である本文は、**基礎・基本の確実な習得**を重視しました。

「**発展**」は学習指導要領で示された発展的な学習の内容、「**参考**」は本文の内容をより深く理解する上で参考になる内容、「**探究**」は学習を深めたり広げたりして探求する内容。興味深い話題で、生徒が生活に対してより広く関心をもてるようにするものです。

★「**ふり返り**」「**学習のまとめ**」で自己評価をして学習の定着をはかることをめざしました。

A, B, C, D各内容（大項目）の学習は、およそ以下のような流れで構成しています。



★ABCDの各内容および「生活の課題と実践」の入り口には、〈見開きの扉〉を設け、学習のめあてと各学習項目を示し、各内容のガイダンスと動機づけができるようにしました。

★各内容の出口の頁には〈学習のまとめ〉を設け、冒頭の「学習の目標」を受けた「学習をふり返ろう」で学習のまとめや反省・自己評価ができるように配慮し、「生活に生かそう」では学んだことを生活の場で活用できるように具体例やヒントなどを示しました。

(3) 造本・体裁上の工夫

★基礎・基本的内容の理解を助けるために、わかりやすい図版・イラスト・写真を多数掲載し、必要性のあるものについては中学生の視点から撮影したり描写したりしました。

★大きく見せたい内容については折込頁で3頁見開きで示しています（例：実物大の食材、安全と防災、日本各地の衣食住の伝統文化）。安全と防災の中の「実習中の安全」は折込を開いたままにすることにより、実習頁を見ながら、常に安全を確認できるように工夫しています。

★実習・製作頁は、基本となるものを中心に参考・応用的なものまで多様な例を取り上げました。

*各実習等は、作業の流れや手順、**進め方を図式化**して視覚的に分かりやすく表現し、見通しを持って学習に取り組むことができるように工夫しました。

★「リンクマーク」を効果的に使い、ABCD相互の内容や技術分野等とも関連ができるようにしました。

★作業中の事故防止や衛生上の観点、また防災を重視し、本文各所で「安全マーク」や「衛生マーク」、「防災マーク」を付して、それぞれの内容に即した注意点を記述しました。

★内容のまとめりごとに**基本となる色**を変え、奇数頁には「爪見出し」を設けて頁を開きやすくするとともに、全体のどの部分を学習しているかが常に分かるように工夫しました。

★全ページに**豆知識**として学習に関連した、ためになる便利な情報を取り上げ、爪見出しにも関連した写真を入れています。そのことで生徒の興味・関心が一層高まるように内容も配慮しました。

★カラーバリアフリーに配慮して、色彩だけに頼らないでも必要な情報が得られるように輪郭線や文字を併用する等の配慮をしました。

★環境保全の一環として、環境にやさしい**大豆油インキ**を印刷に採用し、用紙は**再生紙**を使用しました。

2. 対照表

図書構成・内容			学習指導要領の内容	箇所(頁)	配当 時数
大項目名	中項目名	小項目名			

家庭分野の学習をはじめよう		A(1)ア A,B,C,D	前見返し1~2	1		
自立に向かって		A(1)ア A,B,C,D	2~3			
共生社会に向かって		A(1)ア A,B,C,D	4~5			
持続可能な社会に向かって		A(1)ア A,B,C,D	6~7			
人やものとかかわりながら学ぼう		A(1)ア A,B,C,D	8~9			
A 家族・家庭と子どもの成長	わたしの成長と家族・地域	わたしの成長と周囲の人びと	A(1)ア	12~13	1	
	1 わたしたちと家族・家庭と地域	①家庭のはたらき	A(2)ア	14~15	6	
		②家庭の仕事を支える社会	A(2)ア	16		
		③わたしたちの家庭生活と地域	A(2)ア	18~19		
	2 幼児の生活と遊び	①わたしの成長をたどる	A(1)ア, (3)ア	20~21	7	
		②幼児の体の発達	A(3)ア	24~25		
		③幼児の心の発達	A(3)ア	26~27		
		④幼児の心身の発達と家族の役割	A(2)ア, (3)ア	28~29		
		⑤子どもの成長と地域	A(2)ア, (3)ア	32~33		
		⑥幼児の遊びと発達	A(3)ア	34~35		
		⑦幼児の遊びを支える	A(3)ア, イ	36~37		
	3 幼児とのふれ合い	①ふれ合い体験の前に	A(3)ア, イ, ウ	42~43	5	
		②ふれ合い体験をする	A(3)ア, イ, ウ	44~47		
③ふれ合い体験をふり返る		A(3)ア, イ, ウ	48~49			
4 これからのわたしと家族	①中学生と家族とのかかわり	A(2)イ	50~51	1		
	②これからのわたしと家族との関係	A(2)イ	52~53			
世代を超えた人びとと交流して		A(2)ア, イ D(2)ア	54~55	1		
B 食生活と自立	1 健康と食生活	①食事の役割について考える	B(1)ア	62~63	5	
		②生活習慣と食事	B(1)ア	64~65		
		③中学生に必要な栄養	B(1)イ, (2)ア	66~67		
		④食品と栄養素	B(1)イ, (2)ア	68~69		
		⑤食事の計画	B(1)イ, (2)イ	78~79		
	2 食品の選択と保存	食品が食卓にのぼるまで		B(2)ウ	82~83	7
		①生鮮食品と加工食品	B(2)ウ D(1)イ	84~85		
		②食品の表示	B(2)ウ D(1)イ	86~87		
		③食品の選択・購入と保存	B(2)ウ, (3)ア D(1)イ	90~91		
		④食品の安全と情報	B(2)ウ, D(1)ア	92~93		
	3 調理をしよう	①調理の計画	B(3)ア, D(2)ア	94~95	13 ~ 16	
		②調理の基本	B(3)ア	96~101		
		③肉の調理	B(2)ウ, (3)ア, イ	102~109		
		④魚の調理	B(2)ウ, (3)ア, イ	110~117		
		⑤野菜の調理	B(2)ウ, (3)ア, イ	118~123		
4 地域の食材と食文化	①地域の食材と郷土料理	B(3)イ	130~131	5		
	②受け継がれる食文化	B(3)イ	134~135			
食生活と環境とのかかわり		B(3)イD(2)ア	136~139	1		

C	1 住生活の自立 1 住まいのはたらき	①住まいの様々な役割	C(2)ア	150~151	2	
		②共に住まう	C(2)ア	152~153		
	2 健康で安全な住まい	①家族の健康と室内環境	C(2)ア, イ	154~155	2	
		②家庭内の安全	C(2)ア, イ	156~157		
	3 住まいと地域	①災害への備え	C(2)イ	158~159	3	
		②災害時の住まいと暮らし	C(2)イ	160~161		
		③地域に配慮した住まい方	C(2)ア	162~163		
	これからの住生活と環境			C(2)イ D(2)ア	164~165	1
	2 衣生活の自立 1 日常着の活用	①自分らしくコーディネート	C(1)ア	168~169	3	
		②衣服のはたらき	C(1)ア	170~171		
③衣服の構成		C(1)ア	172~173			
④衣服の入手計画と選び方		C(1)イ	174~175			
2 日常着の手入れ	①衣服の汚れと手入れ	C(1)ウ	176~177	4		
	②衣服の素材と手入れ	C(1)ウ	178~179			
	③衣服の洗濯	C(1)ウ	182~183			
	④衣服の収納・保管	C(1)ウ	184~185			
	⑤衣服の補修	C(1)ウ	186~189			
3 布を用いた物の製作	①製作しよう	C(1)ウ, (3)ア	190~205	7~10		
環境に配慮した衣生活			C(1)ア, イ, ウ D(2)ア	206~207	1	
D	1 家庭生活と消費	①消費生活のしくみ	D(1)ア	214~215	1	
	2 商品の選択と購入	①商品購入のプロセス	D(1)イ	216~217	2	
		②生活情報の活用	D(1)イ	218~219		
		③購入方法と支払い方法	D(1)イ	220~221		
	3 よりよい消費生活のために	①契約と消費生活のトラブル	D(1)ア	224~227	3	
		②消費者を支えるしくみ	D(1)ア	228~229		
		③消費者の権利と責任	D(1)ア	230~233		
	4 環境に配慮した消費生活	①自ら取り組むエコ生活	D(2)ア	236~237	1.5~2	
		②地域や社会での協力	D(2)ア	238		
		③持続可能な社会	D(2)ア	240~241		
生活の課題と実践			A(3)エ B(3)ウ C(3)イ	246~257	1	
「手」を使って、やってみよう			A(2), (3) D(2)	258~259	—	
言語活動の充実のために			A,B,C,D	260~263	—	
安全と防災			B(3)アC(2)イ	268~270	—	
伝統文化を受け継ぎ、生活に生かす			B(3)イ C(1)ア, (2)イ	271・272・後見返し4	—	
未来に向かって			ABCD全般	後見返し5~6	—	
				計	87.5	

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-46	中 学 校	技術・家庭	技術・家庭 (家庭分野)	第 1 ～ 3 学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
009 開隆堂	家庭 726	技術・家庭 (家庭分野)		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項
30	乳児期の場合	1	A(3)ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。
56 ~ 57	子どもの健やかな成長のために	1	A(3)ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。 A(3)エ 家族又は幼児の生活に関心をもち、課題をもって家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践できる。
58	世界の子どもたちは、今	1	A(3)ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。 A(3)イ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解する。 A(3)ウ 幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できる。
70 ~ 71	食品に含まれる成分を、目で見て確かめよう！	1	B(1)イ 栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について考える。
99	「おいしさ」とは	1	B(2)ア 食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について知る。 B(2)ウ 食品の品質を見分け、用途に応じて選択できる。 B(3)ア 基礎的な日常食の調理ができる。安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。 B(3)イ 地域の食材を生かすなどの調理を通して、地域の食文化について理解する。
126 ~ 127	弁当をつくろう	1	B(2)ア 食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について知る。 B(2)イ 中学生の1日分の献立を考える。 B(2)ウ 食品の品質を見分け、用途に応じて選択できる。 B(3)ア 基礎的な日常食の調理ができる。安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。 B(3)ウ 食生活に関心をもち、課題をもって日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、計画を立てて実践できる。
140	災害にあった時の食事は？	1	B(2)ウ 食品の品質を見分け、用途に応じて選択できる。 B(3)ウ 食生活に関心をもち、課題をもって日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、計画を立てて実践できる。
180	ウォームビズとクールビズ素材	1	C(1)ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができる。

208 ~ 209	豊かな衣生活・住生活の実現のために	1	<p>C(1)ア 衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できる。</p> <p>C(2)ア 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知る。</p> <p>C(3)ア 布を用いた物の製作を通して、生活を豊かにするための工夫ができる。</p> <p>C(3)イ 衣服又は住まいに関心をもち、課題をもって衣生活又は住生活について工夫し、計画を立てて実践できる。</p> <p>D(1)ア 自分や家族の消費生活に関心をもち、消費者の基本的な権利と責任について理解する。</p> <p>D(2)ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できる。</p>
210	世界の衣服と住まい	1	<p>C(1)ア 衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できる。</p> <p>C(2)ア 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知る。</p>
234	フェアトレード	1	<p>D(1)ア 自分や家族の消費生活に関心をもち、消費者の基本的な権利と責任について理解する。</p> <p>D(2)ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できる。</p>
244	環境問題への挑戦	1	<p>D(2)ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できる。</p>

(発展的な学習内容の記述に係る総ページ数 14 ページ)

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容